

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370462

研究課題名(和文)現代ロシア語名辞類の語形変化型とアクセント型に関する総合的研究

研究課題名(英文)Quantitative research on declensions and accents of nouns and adjectives in modern Russian

研究代表者

白山 利信 (USUYAMA, Toshinobu)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：50323225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：ロシアの露露辞典を分析対象として名詞と形容詞の全ての見出語を抽出し、データベース化を試みた。『ロシア語詳解大辞典』(13万語)には31,973語の名詞が見出語として収められ、男性名詞が15,267語、女性名詞が10,157語、中性名詞が4,455語、両性名詞が374語(男・女-329語、男・中-19語、女・中-26語)、複数名詞が1,720語であること等が判明した。『ロシア語詳解辞典』(8万語)には15,972語の形容詞が収録され、硬変化型が15,300語で95.8%を占めた。軟変化型は385語で2.4%であること等が判った。得られた数多くの事実はロシア語教育に即反映させ活用できるものである。

研究成果の概要(英文)：In this study Russian explanatory dictionaries served as a basis for building a database of nouns and adjectives. The built database of nouns showed that the “Big explanatory dictionary of the Russian language” (130,000 words) comprises 31,973 nouns, where 15,267 are masculine nouns, 10,157-feminine nouns, 4,455-neuter nouns, 374-amphoteric nouns (masculine/feminine (329), masculine/neuter (19), feminine/masculine (26)), and 1,720-plural nouns. “Explanatory dictionary of the Russian language” (80,000 words) contains 15,972 adjectives, among which 15,300 (95.8%) are hard adjectives and 385 (2.4%) are soft adjectives. The findings of the study can be easily projected and applied to the Russian language education.

研究分野：言語学、言語教育学、言語政策論

キーワード：現代ロシア語 名詞 形容詞 語形変化型 アクセント型 数量的分析

### 1. 研究開始当初の背景

(1)ロシア本国や欧米等におけるロシア語学分野では、格変化型の歴史的変遷に関する研究(Durnovo N.N.:1924, Kuznetsov P.C.:1953, Avanesov R.I.:1978)やアクセント研究(Bystrov A.:1942, Garde P.:1968, Red'kin V.A.:1971, Steele R.:1975, Zaliznyak A.A.:1985)など、名詞及び形容詞の研究で顕著な成果をあげている。しかし、ソ連末期のペレストロイカ(1985)以降、急激な社会変動とともにロシア語の種々の言語変化が進行したと言われる時期の言語資料に基づいた研究は非常に限定的である。

(2)日本ではロシア語研究者の数が少ない上、その多くが動詞研究に比重を置いている。その中でも名詞及び形容詞のロシア語アクセントに関する優れた研究(城田俊:1978、服部文昭:1989、神山孝夫:1990)が存在するが、十分に研究し尽くされているわけではない。

(3)特筆すべき研究動向としては、浦井康男氏による、Zaliznyak A.A.の『ロシア語文法辞書』の電子データベースを活用した名詞に関する格変化型とアクセント型の研究の一部が日本ロシア文学会全国大会(2001)で発表された。

### 2. 研究の目的

(1)現代ロシア語の名詞及び形容詞の語形変化型とアクセント型などの全体像を明らかにする。

(2)ソ連崩壊後に出現した新しい語彙を中心に名詞及び形容詞の各タイプの生産力の程度や、語形変化型とアクセント型などの間の相関性の有無等を確認する。

(3)当該研究成果をロシア語教育の現場に反映させるために、教材開発の現場で活かす可能性を探る。

### 3. 研究の方法

(1)現代ロシア語名詞の数量的分析を実施するための研究基盤づくりを行う。具体的には、『ロシア語詳解大辞典』(13万語、2003、S.A.クズネツォフ編、サンクトペテルブルグ)を基礎資料として、収録されているすべての名詞を抽出し、データベース化作業を行う。まずアルファベット順にリストの形で入力し、次に必要情報項目(文法性、単数形及び複数形の全語形変化表、アクセント記号の付与等)を入力する。さらに入力を終了した段階で、すべての名詞に関する格変化系列とアクセント系列のグルーピング作業を行い、系列情報をデータベースに追加入力する。こうして作成したデータに基づき、格変化系列およびアクセント系列の相対化作業を実施し、主系列と非主系列の詳細な状況を整理する。そして新しい時代と社会の諸相を

反映しているような語を特に取り上げて、各語の格変化型、アクセント型を調べ、生産力のあるタイプの確定を試みる。

(2)現代ロシア語形容詞の数量的分析を実施するための研究基盤づくりを行う。具体的には、『ロシア語詳解辞典』(8万語、2013、S.I.オジェゴフ、N.Yu.シュヴェドヴァ編、モスクワ)を基礎資料として、まず名詞の場合と同様、語のリスト化、必要情報項目(硬変化・軟変化の別、長語尾形及び短語尾形における男・中・女・複の全語形変化表、アクセント記号の付与等)の入力といったデータベース化作業を行う。次に類型化を試み、格変化型とアクセント型の生産的なものと揺れのあるものなどに関する詳細な状況を明らかにする。

(3)得られた研究成果のうち、ロシア語教育の現場で活用できる有益な情報を選別し、ロシア語教材の記述内容に反映させる方法を検討する。

### 4. 研究成果

(1)『ロシア語詳解大辞典』(13万語、2003、サンクトペテルブルグ)を分析対象として名詞のすべての見出語を抽出し、約1年間に及ぶ手入力作業によってデータベースを作成した。当該辞典には、31,973語の名詞が見出語として収められ、男性名詞が15,267語、女性名詞が10,157語、中性名詞が4,455語、両性名詞が374語、複数名詞が1,720語であること等が判明した。このことから男性名詞が名詞全体の5割(47.7%)近くを、女性名詞が3割(31.8%)を、中性名詞が1割強(13.9%)を占めることがわかった。

(2)ロシア語名詞は、基本的に語形などにより六つのタイプ(1.子音字で終わる、2.-ьで終わる、3.-а/-яで終わる、4.-еで終わる、5.形容詞男性形)の形式を持つ(以上、1.から5.までは語形変化を伴うもの)、6.不変化名詞)に分類できることが判明した。通常、中性名詞の語形である-eで終わる男性名詞で、且つ格変化するものは、подмастерьеの1語のみであった。

(3)女性名詞は、四つのタイプ(1.-а/-яで終わる、2.-ьで終わる、3.形容詞女性形の形式を持つ、4.不変化名詞)に分類できることが判明した。

(4)中性名詞は、四つのタイプ(1.-о/-е(-è)で終わる、2.-мяで終わる、3.形容詞中性形の形式を持つ、4.不変化名詞)に分類できることが判明した。

(5)両性名詞は、三つのタイプ(1.男性・女性 - 329語、2.男性・中性 - 19語、3.女性・中性 - 26語)があることが判明した。その中で

最も多いのが男性名詞にも女性名詞にもなる両性名詞で、両性名詞全体の約9割(88.0%)を占めることがわかった。

(6)『ロシア語詳解辞典』(8万語、2013、S.I. オジェゴフ、N.Yu. シュヴェドヴァ編、モスクワ)を分析対象として形容詞のすべての見出語を抽出し、約半年間に及ぶ手入力作業によってデータベースを構築した。当該辞典には、15,972語の形容詞が見出語として収められ、これらすべての形容詞のうち硬変化型形容詞が95.8%(15,300語)を占め、一方、軟変化型形容詞がわずか2.4%(385語)にすぎないことが判明した。この事実は、ロシア語教育の中で形容詞の文法項目として両者が同等に扱われている現実にある種の再考を促すものである。ついでながら、不変化形容詞は41語(0.03%)存在することがわかった。

(7)硬変化型形容詞の全15,300語のうち11,172語がновый型で73%(11,172/15,300)を占めること、軟変化型形容詞の全385語のうち266語がхороший型で69.1%(266/385)を占めることが判明した。

(8)形容詞長語尾形の硬変化型(15,300語)と軟変化型(385語)のすべてにおいてアクセント移動がないことがわかった。

(9)見出語として収録された全形容詞のうち短語尾形を形成する形容詞が3,564語で22.3%(3,564/15,972)、短語尾形を形成しない形容詞が12,408語で77.7%(12,408/15,972)を占めることが判明した。

(10)男性短語尾形を持つ形容詞3,544語のうち54.6%に当たる1,935語で出沒母音が存在すること、さらにその出沒母音が出現する形容詞の94.6%(1,831語)が-енという語尾を取ることが判明した。この事実も中級レベルのロシア語教育の現場において非常に役立つであろう知見である。

(11)短語尾男性形・女性形・中性形・複数形の全ての語形形成が可能な形容詞が3,322語存在することが判明した。これは短語尾形を形成するすべての形容詞のうちの93.7%(3,322/3,544)である。

(12)形容詞短語尾形にはI型(アクセントは常に語幹)、II型(男性形以外は語尾に移動)、III型(女性形のみが語尾に移動)、IV型(アクセント移動の揺れは7分類が可能)という4つのアクセント型が存在することが判明した。

(13)形容詞短語尾形においてアクセント移動に揺れのある形容詞は206語あり、短語尾形を形成できる全形容詞(3,544語)のうち5.8%に相当することがわかった。揺れが観察

される箇所は、複数形、女性形、中性形・複数形、男性形・複数形、女性形・中性形・複数形、女性形・複数形、全形形である。このうち最も揺れの多い箇所は、の複数形で、62.4%(128/206)を占める。

(14)アクセント型の比率ではI型(アクセントは常に語幹)が90.2%(2,996語)を占め、II型が0.9%(31語)、III型が2.7%(89語)、IV型は6.2%(206語)であることが判明した。この事実もロシア語教育において極めて有益な知見である。

(15)II型では1~3音節語幹の形容詞が9割(29語)以上を占めること、III型では単音節語幹の形容詞が9割以上(82語)を占めること、IV型では単音節語幹の形容詞が8割以上(175語)を占めることがわかった。

(16)上記の成果の一部は、筑波大学グローバルコミュニケーションセンターの新しいロシア語教材やNHKラジオまいにちロシア語入門編(2015年8月号)「サバイバルロシア語」(研究代表者が担当講師)のテキストの中で活用した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

白山利信、菱川邦俊、松下聖、多様な外国語教育を基盤とした日本型グローバル人材の育成を考える、複言語・多言語教育研究、日本外国語教育推進機構年報、査読有、第3号、2015、15-39

USUYAMA, Toshinobu, The assimilation process of Russian immigrants and preservation of the Russian language and culture in Australia, *Russian Journal of Communication*, peer-reviewed journal, Volume 7, Issue 2, Routledge, London, 2015, pp.229-235 DOI:10.1080/19409419.2015.1044879

Усуяма Тосинобу, Инамори Фумика, Количественный анализ имён существительных в современном русском языке, оканчивающих на мягкий знак (白山利信、稲森文華、軟音記号で終わる現代ロシア語名詞の数量的分析)、外国語教育論集、筑波大学外国語センター紀要、査読有、第37号、2015、19-34

[学会発表](計8件)

Усуяма Тосинобу, Накатани Ватару, Цыгальницкая Е.: Количественное исследование прилагательных современного русского языка, XIII Конгресс Международной ассоциации

преподавателей русского языка и литературы «Русский язык и литература в пространстве мировой культуры», 3-е направление «Системно-структурное описание современного русского языка», Дворец конгрессов (Palacio de Congreso, г.Гранада, Испания, 16 сентября 2015 г., s). ( 臼山利信・中谷航・ツガルニツカヤ エレナ「現代ロシア語形容詞の数量的研究」, 第13回国際ロシア語ロシア文学会世界大会《世界文化の空間におけるロシア語及びロシア文学》, 第3分科会「現代ロシア語の体系的・構造的記述」, 大会宮殿, グラナダ, スペイン, 2015年9月16日 ) 臼山利信, 「ポスト・ソビエト時代の中央アジア地域におけるロシア語の役割 (Роль русского языка в постсоветском Центрально-Азиатском регионе)」, 基調講演, 国際学術会議「文明のクロスロード 12 言葉・文化・社会の様相」, 主催: ロシア・タジク・スラヴ大学・筑波大学, ロシア・タジク・スラヴ大学, ドシャンベ, タジキスタン共和国, 2015年3月17日 . 臼山利信, 「多様な外国語教育を基盤とした日本型グローバル人材の育成を目指す 高等学校の複数外国語必修化に向けた JALP 提言の意義と今後の課題」, 3<sup>rd</sup> Annual JALT 全国語学教育学会 OLE SIG Conference ) 招聘報告, 2014年9月27日, 神田外語大学 (千葉県千葉市). 臼山利信, 「日本社会の未来を拓く多様な外国語教育を目指して 創造的問題解決能力を育む一助としての外国語教育」, 日本言語政策学会第16回大会, 2014年6月8日, 千葉大学 (千葉県千葉市). Усуяма Тосинобу :Существование разных культур, обучение иностранным языкам и Махтумкули Фраги, Международная научная конференция «Махтумкули Фраги и общечеловеческие ценности», Туркменский Национальный университет им. Махтумкули Фраги, Ашхабад, Туркменстан, 16 мая 2014 г. ( 臼山利信, 「多文化共生, 外国語教育とマグトゥムグリ・プラグ」, 国際学術会議「マグトゥムグリ・プラグと人類の文化の価値」, 主催:トルクメニスタン政府, マグトゥムグリ記念トルクメニスタン国立大学, アジュガバード, トルクメニスタン, 2014年5月16日 ) 臼山利信, 「日本における多言語教育政策に関わる取組み 日本言語政策学会による高等学校の複数外国語必修化に向けた活動を中心に」, 日本ロシア語教育研究会 2013年度ロシア語教育研究集会, 招聘報告, 2013年12月1日, 大阪大学 (大阪府箕面市). Усуяма Тосинобу, Инамори Фумика :

Количественный анализ слов с окончанием на мягкий знак, принадлежащих к именам существительным в современном русском языке, 11-чи Эл аралык илимий коференциясы «Цивилизациялардын кесилишиндеги—тил, маданият, коомдук аспекти—», Бишкек Гуманитардык Университети, Бишкек, 2014-жалдын март айынын 12 күндөрү. ( 臼山利信, 稻森文華「現代ロシア語の- で終わる名詞に関する数量的研究」, 国際学術会議「文明のクロスロード 11 ことば・文化・社会の様相」, 主催:キルギス人文大学・筑波大学, ピシユケク人文大学, ピシユケク, キルギス共和国, 2014年3月12日 ) 臼山利信, 「21世紀型社会の外国語教育と言語教育政策アドボカシー 「もうひとつの学習指導要領」をどうやって実現するか」, 日本言語政策学会第15回記念大会, 招聘報告, 2013年6月2日, 桜美林大学 (東京都町田市).

[図書] (計6件)

森住衛他編, 臼山利信他著, くろしお出版, 外国語教育は英語だけでいいのか グローバル社会は多言語だ!、2016、308(86-100)  
清沢紫織他著, 臼山利信監修, 筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター, 日本人のためのペラルーシ語入門、2016、72  
Под редакцией Вербицкой Л.А. и др., Усуяма Тосинобу и др., МАПРЯЛ, Русский язык и литература в пространстве мировой культуры (г.Гранада, Испания, 13-20 сентября 2015 года), Материалы XIII Конгресса Международной ассоциации преподавателей русского языка и литературы, Том 4, Санкт-Петербург, 2015, 208(176-179) (L.A.ベルビツカヤ他編, 臼山利信他著, 国際ロシア語ロシア文学会, 世界文化の空間におけるロシア語及びロシア文学(グラナダ, スペイン, 2015年9月13~20日) 第13回国際ロシア語ロシア文学会世界大会, 第四巻, サンクトペテルブルク, 2015, 208(176-179) ) 臼山利信他著, NHK出版, NHK ラジオテキスト まいにちロシア語(2015年8月号) 2015、142(5-77)  
後藤クセーニヤ著, 臼山利信監修, 筑波大学外国語センター, ロシア語 練習問題集 初級, 2014、39  
後藤クセーニヤ著, 臼山利信監修, 筑波大学外国語センター, ロシア語文法のまとめ 初級, 2013、58

〔その他〕

刊行された報告論文・要旨

臼山利信、「日本社会の未来を拓く多様な外国語教育を目指して」、『日本言語政策学会第16回大会 予稿集』(2014年6月7・8日、千葉大学) 査読有、2014、79-80頁

臼山利信、「もうひとつの学習指導要領」をどうやって実現するか」、『日本言語政策学会第15回記念大会 予稿集』(2013年6月1・2日、桜美林大学) 査読有、2013、66頁

特別講演会

臼山利信、「グローバル人材とは何か? 多様な外国語教育こそが真のグローバル人材の育成に貢献できる」(平成27年度 関西大学外国語学部FDセミナー、対象: 全学教職員、主催: 関西大学外国語学部・外国語教育学研究科) 2016年2月22日、関西大学(千里山キャンパス)(大阪府吹田市)。

臼山利信、「グローバル人材とは何か? ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(Ge-NIS)プログラムを事例として」(平成27年度 筑波大学SD研修特別講演会、対象: 全学教職員、主催: 筑波大学グローバル・コモンズ機構グローバル・スタッフ育成室) 2015年12月21日、筑波大学(茨城県つくば市)。

臼山利信、「現代ロシア語名詞の文法性に関する数量的研究の問題に寄せて(К вопросу о количественном исследовании по грамматическим родам имен существительных в современном русском языке)」、特別講演、主催: トビリシ国立大学ロシア語・ロシア文学講座、2015年12月10日、トビリシ国立大学、トビリシ、ジョージア共和国。

USUYAMA, Toshinobu : Establishing and Preserving New Ties between Japan and Russia: Utilizing Creative Problem Solving Skills for Enhancing Mutual Cooperation, Keynote Lecture, "Japan-Russia Student Forum 2015" (co-organized by Japan Russia Youth Exchange Center and University of Tsukuba), 3 December, 2015, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki, Japan.

USUYAMA, Toshinobu : Preservation and Loss of the Minority Ethnic Language and its Culture On the Case of Russian Immigrants in Australia , Special Lecture of Faculty of Slavic Studies, 16 November, 2013, Bishkek Humanities University named after K. Karasaev, Bishkek, Kyrgyz Republic.

臼山利信、「グローバル社会と日本の外国語教育」(筑波大学中央アジア事務所主催 国際貢献・遠隔教育特別講義「人文科学を楽しむ」(第4回) テレビ会議システムによる特別講義、対象: タシケント国立東洋学大学アジア・極東学部日本語学科) 2013年6月28日、筑波大学(茨城県つくば市)。

新聞記事

臼山利信、「外国語教育 グローバル化 英語以外も視野に」、『朝日新聞』、第46056号(日刊) 学びを語る、教育、第30面、2014年7月30日付(インタビュー記事)。

雑誌記事

臼山利信、「グローバル人材育成へ: ロシア語の役割」、『英語教育』September 2013 Vol.62 No.6、リレー連載 多言語世界へのまなざし[6] 大修館、2013年9月、54-55頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

臼山 利信 (USUYAMA, Toshinobu)  
筑波大学・人文社会系・教授  
研究者番号: 50323225